

「第11回京都から発信する政策研究交流大会」学生企画の開催結果について

1 日 時

平成27年12月6日(日) 午後3時30分～午後5時

2 場 所

キャンパスプラザ京都 4階 第4講義室

3 参加者

- 市会改革推進委員 9名  
寺田かずひろ委員長, 吉田孝雄副委員長, 橋村芳和委員, 椋田隆知委員,  
赤阪仁委員, 加藤あい委員, 中野洋一委員, 大津裕太委員, 宇佐美けんいち委員
- 学生 56名  
公募により集まった学生47名及び学生実行委員(司会・ファシリテーター)9名

4 内 容

テーマ:「若者の政治参加を考える」

<意見交換会(グループディスカッション)の流れ>

- ① 参加者同士の自己紹介
- ② 議員に聞きたいこと, 政治へのイメージを学生が書き出す。
- ③ ②で出てきた内容の共有・整理
- ④ ③で共有・整理した内容を基に, 理想の政治像について意見交換
- ⑤ ④で出てきた意見について, 各グループ発表

5 各グループの主な意見

【Aグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい
- ・ 若者の関心が低い。

<解決策>

- ・ 議員による情報発信を強化する。
- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

【Bグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者の投票率が低いのは, 超高齢社会が進む中で, 高齢者に対する施策ばかりが手厚くなっており, 若者は投票に行っても自分たちに恩恵がある施策は実現されていないと感じているからではないか。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

#### 【Cグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい。
- ・ メディアが否定的な報道しかしないことから、悪いイメージが先行している。
- ・ 政治教育において、「政治的中立性」と言うが、色を出さないことが政治的中立性という風潮があることから、自分の意見を言えないのではないか。

<解決策>

- ・ 教育の場において、政治に触れる機会を増やす。
- ・ 政治家との意見交換の場を設けるなど、政治を身近に感じられる環境を整える。

#### 【Dグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者は政治参加しにくい。
- ・ 暗く、古い。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。
- ・ 学校教育の場において、「公共」というような新科目を設ける。
- ・ 被選挙年齢を引き下げ、若者にとって政治家を身近なものに感じさせる。
- ・ 議員の定年退職制度を導入する。
- ・ インターネットを通じた選挙運動を行う。

#### 【Eグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 分かりにくい。

<解決策>

- ・ 政治家との意見交換の場を設ける。
- ・ 政治的中立性を確保したうえで、知識を身に付けられる教育を推進する。
- ・ 有権者である若者が主体的に情報を集め、行動する。

#### 【Fグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 若者は、権利があるにもかかわらず、政治に対して主張しない。
- ・ 議員は、SNSなどを通じてやり取りすることもできるが、いまだ遠い存在である。

<解決策>

- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。

#### 【Gグループ】

<政治へのイメージ>

- ・ 税金の使い道がよく分からない。税金が市民に還元されている実感がない。
- ・ 若者に対する施策が十分でないのではないか（高齢者に対する施策が多い）。
- ・ 政治家は、自身のイメージを向上させることに熱心な印象がある。

<解決策>

- ・ 税金の使われ方を知ってもらうため、SNS等で積極的に情報を発信する。強制的にでも目に触れられるようにする。
- ・ 就職支援や奨学金支援など、学生に対する施策を積極的に発信する。
- ・ 高校や大学などでも政治家との意見交換の場を設ける。
- ・ SNSによる情報発信を強化する。

**【Hグループ】**

<政治へのイメージ>

- ・ 政治は難しく、主張しても何も変わらないとの意識がある。
- ・ 政治参加は選挙だけだと思っている。

<解決策>

- ・ 自身の不満を政治に反映させる意識を持つことが大切である。
- ・ 若者と議員による意見交換の場を設ける。